

「中世英文学研究会」  
研究発表・シンポジウムにおける発表者とテーマ  
(1965年5月3日－1984年11月25日)

第1回例会 (1965年5月3日、同志社大学)

研究発表 司会 吉田新吾

1. 斎藤 勇：Textuel と sentence—中世文学研究の一方法
2. 木方庸助：拙著『準備時代の英国劇』の問題点

第2回例会 (1965年10月17日、京都大学)

研究発表 司会 広瀬捨三

1. 宗和宝正：*Beowulf* の死後
2. 関本栄一：*The Parlement of The Thre Ages* について
3. 田中幸穂：C-Text の写本について
4. 佐々部英男：中世英詩における春の概念

シンポジウム *MED* をめぐって

司会 広瀬正幾

発表者 須藤 淳、水鳥喜喬、大泉照夫

第3回例会 (1966年5月3日、京都大学)

研究発表 司会 吉田新吾

1. 野口俊一：マロリーの言語の性格のパラドックスについて
2. 宗和宝正：OE Lyric の新鮮さについて
3. 滝本二郎：“The Reeve’s Tale”の Design について—Northern Dialect を中心に
4. 豊田昌倫：‘The nirt in the nek’—Sir Gawain and Green Knight について
5. 山田二郎：Middle Scottish に於て見られる主語と述語の照応に表れる短路性について

第4回例会 (1966年10月9日、京都大学)

研究発表 司会 斎藤 勇

1. 浜田 裕：*Sir Gawain and the Green Knight* の色彩語について
2. 大泉照夫：Chaucer の Sentence Structure—特に OE との関連において

シンポジウム 中世にたいする私のアプローチ

司会 田中幸穂

発表者 野口俊一、今西雅章、関本栄一

第5回例会 (1967年5月3日、同志社大学)

研究発表 司会 須藤 淳

1. 水島喜喬：*Sir Gawain and the Green Knight* の tense について
2. 山田二郎：Robert Henryson、*The Testament of Gresseid* と所謂 Chaucer の語法について
3. 滝本二郎：“The Canon’s Yeoman’s Tale”の unity について

第6回例会（1967年10月7日、同志社大学）

研究発表（司会者不明）

1. 斎藤 勇：Ben H. Smith, *Traditional Imagery of Charity in Piers Plowman* について

シンポジウム MEにおける語順の発達

司会 大泉照夫

発表者 大泉照夫、柴田黎児、阿波加清志、三浦常司

第7回例会（1968年5月3日、同志社大学）

研究発表 司会 佐々部英男

1. 大場啓蔵：*Beowulf*における digressions と episodes の問題
2. 野口俊一：ヴィナーヴァ校訂、オックスフォード・マロリー改訂第二版のこと

帰朝報告 成瀬正幾

第8回例会（1968年10月6日、同志社大学）

帰朝報告 中尾祐治：Brown 大学における中世英語研究

シンポジウム Courtly Love

司会 須藤 淳

発表者 吉川和代、長沢宏江、坂本完春

第9回例会（1969年5月3日、関西大学）

研究報告 司会 斎藤 勇

1. 広瀬捨三：継子譚としてのチョーサー『弁護士の話』
2. 須藤 淳：A Note on Semantic Blending in Middle English Vocabulary
3. Cornelia Dick：Book Review（書評：書物名不明）

第10回例会（1969年12月4日、関西大学）

シンポジウム 中世英語研究と英語史

司会 広岡英雄

発表者 井上忠夫、水島喜喬、中尾祐治

第11回例会（1970年5月3日、関西大学）

研究発表 司会 広岡英雄

1. 宗和宝正：*Beowulf* と *Andreas*
2. 斎藤 勇：“Wife of Bath’s Prologue”における Wife の聖書釈義

第 12 回例会 (1970 年 12 月 3 日、関西大学)

研究発表 司会 広岡英雄

1. 藤谷多磨雄：-gh 音の消失を証明する証拠の用例に関する一考察
2. 加藤猛夫：パストン家書簡集に見える語法について
3. 米倉 綽：Contact-Clauses in Late Middle English

第 13 回例会 (1971 年 5 月 3 日、同志社大学)

研究発表 司会 成瀬正幾

1. 斎藤 勇：Chaucer の“The Clerk’s Tale”における Job への言及
2. 大泉昭夫：口誦定形句理論とその英文学作品への適用—研究の現状と今後の問題

シンポジウム アングロサクソン文学の諸断面

司会 佐々部英男

発表者 大場啓蔵、宗和宝正

第 14 回例会 (1971 年 10 月 10 日、同志社大学)

研究発表 司会 水島喜喬

1. 米倉 綽：最近の英語語順の研究状況
2. 近藤健二：of necessity, of late, of a Sunday, etc.の起源について
3. 成瀬正幾：中世詩 *Pearl* における『真珠』像について

シンポジウム 中世英語に及ぼした外国語の影響

司会 須藤 淳

発表者 須藤 淳、三浦常司、豊田昌倫

第 15 回例会 (1972 年 5 月 7 日、京都大学)

研究発表 司会 大泉昭夫

1. 大島 巖：*The Paston Letters* における人称代名詞について
2. 福井秀加・大高順雄：アングロ・ノルマン語・文学の諸特徴について

帰朝報告 田中幸穂：英米で調べた ME 関係の写本

第 16 回例会 (1972 年 10 月 8 日、京都大学)

研究発表 司会 滝本二郎

1. 肥田友宏：“The Knight’s Tale”の運命観

シンポジウム アングロ・サクソンの思潮から中世思潮の流れ—特に *The Owl and*

*the Nightingale* をめぐって

司会 関本栄一

発表者 佐々部英男、関本栄一、吉川和代

帰朝報告 大場啓蔵：アングロ・サクソン研究の最近の動向

斎藤 勇：中世文学と読者

第 17 回例会 (1973 年 5 月 27 日、関西大学)

研究発表 司会 広岡英雄

1. 海老久人：*The Pardoner's Tale* における問題点—The Hunter's, Hunted
2. 成瀬正幾：中世詩 *Pearl* の text 決定上、解釈上の若干の問題点について
3. 米倉 綽：*Malory* の関係詞文の構造

第 18 回例会 (1973 年 10 月 7 日、関西大学)

研究発表 司会 広岡英雄

1. 伊藤孝治：*Piers the Plowman (A-Version)* と *The Canterbury Tales* に用いられた関係代詞について—特に‘that’を中心として

シンポジウム *Sir Thomas Malory* の言語と文体

司会 大泉昭夫

発表者 米倉 綽、岡田忠一、中尾祐治

第 19 回例会 (1974 年 5 月 25 日、同志社大学)

研究発表 司会 滝本二郎

1. 今西雅章：*Edmund Reiss* の新著 *The Art of the Middle English Lyric*(1792)について
2. 斎藤 勇：“The Friar's Tale”における Summoner と audience
3. 三浦常司：*Romaunt of the Rose* における‘gin’と‘do’の用法

第 20 回例会 (1974 年 10 月 6 日、同志社大学)

研究発表 司会 田中幸穂

1. 高橋 博：The Concessive Subjunctive in *peah*-clause on OE
2. 大島 巖：*Edmund Paston II* の英語

創立 10 周年記念講演会

司会 広瀬捨三

御輿員三：死の歌について

シンポジウム 三つの「トロイラスとクレシダ」

司会 斎藤 勇

発表者 佐々木富美雄、吉川和代、奥 恭子

第 21 回例会 (1975 年 6 月 15 日、京都大学)

研究発表 司会 中尾祐治

1. 阿波加清志 : OE, ME における Kinship Terms
2. 大泉昭夫 : Chaucer の語彙の意味構造

司会 田中幸穂

3. 成瀬正幾 : 真珠から「真珠」まで—真珠の象徴的意味の発生とその展開
- 帰朝報告 水島喜喬 : 語りもの文学の背景—Sir Gawain の旅路をたずねて

第 22 回例会 (1975 年 10 月 12 日、京都大学)

シンポジウム Chaucer, *The Miller's Tale* をめぐって

司会 斎藤 勇

発表者 海老久人、六反田収、須藤 淳

第 23 回例会 (1976 年 5 月 3 日、関西大学)

研究発表 司会 広岡英雄

1. 石原田正広 : Margaret Paston の ME /
2. 藤谷多磨雄 : *Beowulf* における sculan(=shall)について

第 24 回例会 (1976 年 11 月 14 日、関西大学)

研究発表 司会 広岡英雄

向井 毅 : Caxton's Editional Hand in Malory's Book V

シンポジウム *Beowulf* の言語

司会 佐々部英男

発表者 藤谷多磨雄、大場啓蔵、宗和宝正

第 25 回例会 (1977 年 5 月 15 日、竜谷大学)

研究発表 司会 斎藤 勇

1. 笹本長敬 : Chaucer, *The Hous of Fame* の意味するもの
2. 大島 巖 : *Paston Letters* における強変化動詞の過去分詞語尾-en について

第 26 回例会 (1977 年 11 月 20 日、竜谷大学)

帰朝報告 大泉昭夫 : 新しい『古期英語辞典』

シンポジウム *Havelok the Dane* の英語

司会 三浦常司

発表者 松原良治、水谷洋一

第 27 回例会 (1978 年 5 月 14 日、竜谷大学)

帰朝報告 小川 浩 : オックスフォードの英語学

研究発表 司会 広瀬捨三

1. 向井 毅：Wynkyn de Worde's Malory 一言語的差異についての報告
2. 吉田和男：中英語詩 *Pearl* における救済について

第 28 回例会 (1978 年 11 月 12 日、竜谷大学)

帰朝報告 阿波加清志 (テーマ不明)

シンポジウム 英国における中世紀のテキスト

司会 大泉昭夫

発表者 大泉昭夫、田中幸穂、大高順雄、福井秀加

第 29 回例会 (1979 年 5 月 3 日、同志社大学)

研究発表 司会 大場啓蔵

1. 浜口恵子：チャーサーの「粉屋の話」における人物描写
2. 長谷川寛：*Wulf and Eadwacer* について

ビデオテープによる『バラ物語』の鑑賞

研究発表 司会 三浦常司

1. 米倉 綽：『ウィクリフ派訳聖書』における動詞（句）構造
2. 吉岡治郎：ゴート語訳聖書について

第 30 回例会 (1979 年 10 月 21 日、同志社大学)

研究発表 司会 水島喜喬・佐々部英男

1. 横井雄峰：One's self の変遷について
2. 長谷川寛：ルーン文字とフランクス・キャスケットー小箱の右側面の彫刻と刻文について
3. 地村彰之：形容詞からみた Chaucer の人物描写—Troilus と Criseyde
4. 海老久人：説教文字における「例話」の機能—チャーサーの場合

講演 司会 斉藤 勇

松浪 有：あるチャーサー像—うき世の世すぎ身すぎ

第 31 回例会 (1980 年 5 月 3 日、同志社大学)

研究発表 司会 斉藤 勇・阿波加清志

1. 横山茂樹：ガウエイン卿の帰還
2. 田中幸穂：チャーサー『百鳥の集い』14 写本の比較
3. 酒井倫夫：OE 詩 *Christ I. II. III.* をめぐって—Authorship の判定と統計的手法
4. 田島松二：チャーサーにおける動名詞

講演 司会 大泉昭夫

Angus Fraser Cameron: *The Dictionary of Old English: A Progress Report*

第 32 回例会 (1980 年 10 月 19 日、同志社大学)

研究発表 司会 佐々部英男・三浦常司

1. 長谷川寛：英雄叙事詩『モールドンの戦い』—フェルド軍と武器を中心に
2. 吉村耕治：『ベーオウルフ』における色彩効果について
3. 安藤光史：チャーサーにおけるの‘gentillesse’二つの面

シンポジウム 中世における英語と文学の関係—N. F. Blake, *The English Language in Medieval Literature* (1977)をめぐって

司会 宗和宝正

発表者 宗和宝正、中尾祐治、大島 巖、菅野正彦

第 33 回例会 (1981 年 5 月 3 日、関西外国語大学)

研究発表 司会 大島啓蔵・大泉昭夫

1. 佐藤 昇：*Beowulf* as a ‘troped’ poem
2. 柴田竹夫：Chaucer の *The Knight’s Tale* におけるアイロニー
3. 太田垣正義：Norman England における language contact
4. 和田葉子：*Katherine-Group* における関係代名詞

ビデオテープによる「写本の作製法」の観賞

第 34 回例会 (1981 年 10 月 11 日、関西外国語大学)

研究発表 司会 田中幸穂

1. 菊地清明：*Sir Gawain and the Green Knight* における二人称代名詞 YE と THOU の交替以降について
2. 浜口恵子：“The Reeve’s Tale”における動機づけについて—類話との比較において

シンポジウム “The Nun’s Priest’s Tale”をめぐって

司会 斉藤 勇

参考者 斉藤 勇、井田琇穂、岡 照雄

第 35 回例会 (1982 年 5 月 3 日、関西外国語大学)

研究発表 司会 福井秀加・広瀬捨三

発表者 海老久人、六反田収、須藤 淳

1. 山内一芳：OE 詩における定動詞と頭韻について
2. 松下知紀：中英語の開音節長音化に対する Norman-French 借用語の例外性
3. 藤井健夫：英国聖体祭劇のプロセッショ
4. 斉藤 勇：文字は殺し、霊は生かす—イギリス中世宗教抒情詩の一側面

第 36 回例会 (1982 年 10 月 11 日、関西外国語大学)

研究発表 司会 阿波加清志

1. 柳 さよ : Early ME 期散文の完了形—宗教文学を中心に
2. 杉山隆一 : *Ancrene Wisse* における There 構文

帰朝報告 大泉昭夫 : オックスフォードの中世英語英文学研究—その歴史と伝統  
シンポジウム Chaucer の言語と表現

司会 須藤 淳

発表者 福井洋子、地村彰之、西村秀夫

第 37 回例会 (1983 年 5 月 1 日、京都大学)

研究発表 司会 海老久人・小川 浩

1. 西納春雄 : “The Noble Tale of King Arthur and the Emperor Lucius” と The *Allieterative Morte Arthure—Malory* の人物造型と物語の位置
2. 秋篠憲一 : *Sir Thopas* 中断の意味するもの
3. 六反田収 : チョーサーの女性描写について
4. 長谷川寛 : サトン・フー船葬墳と「ベーオウルフ」—本詩に描かれた *helmas* とその詩的表現

講演 司会 佐々部英男

Marie Borroff: The Authorship of *St Erkenwald*

第 38 回例会 (1983 年 10 月 10 日、京都大学)

研究発表 司会 二村宏江

前久保留女 : Chaucer の *The Parlement of Foules* における愛の諸相とその展開—  
“ernest”から“game”へ、“game”から“ernest”へ

帰朝報告 斉藤朋子

シンポジウム チョーサーの夢物語 : 構造と意味

司会 海老久人

発表者 安藤光史、松田 英、笹本長敬、海老久人

第 39 回例会 (1984 年 5 月 3 日、京都大学)

研究発表 司会 斉藤朋子

1. 津田雄次 : *Sir Gawain and the Green Knight* における ON 系の語彙と物語の解釈について
2. 和田葉子 : *Ancrene Riwe Nero* 写本の特異性について—不定詞の用法と写字生の文体について
3. 長谷川寛 : *Beowulf*—怪物 Grendel 母子と Grendles mere をめぐって

講演 司会 斉藤 勇

Priscilla Martin: Indirect Relations: the Misty Syntax of *Piers Plowman*

第40回例会 (1984年11月25日、京都大学)

シンポジウム 中期英語研究の展望と課題

研究発表者 羽田陽子、田島松二、近藤健二

評論者 阿波加清志、中尾祐治、三浦常司

講演 司会 大泉昭夫

Raymond Bruce Mitchell: The Main Differences between Old English and  
Modern English (excluding Pronunciation)